

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型サービスとして、運営推進会議を通して地域との交流や、協力を仰ぎ、地域の一員として生活できる様援助していく。</p>	<p>保育園の園児との定期的な交流。 公園での清掃活動。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>普段の業務においても話しているが、月1回のケアカンファレンスにおいても職員には話し周知徹底している。</p>	<p>日々の業務の中でも理念を石氏業務にとり組める様、管理者がスタッフ1人1人に働きかける。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議にて、家庭や地域の方々には話している。又ホーム内にも見やすい場所に理念を掲示している。</p>	<p>運営推進会議にて定期的にホームの理念について、家族や地域の方々に評価する機会を設ける。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>隣近所、犬の散歩等気軽に立ち寄ってもらえる様挨拶に努めている。 近くのコンビニに毎週週刊誌を入居者さんと購入しに出掛けることで店員とも直馴染みの関係となっている。 毎年三中生のボランティアの受け入れを行っており、ホームや認知症について学んでもらっている。その際入居者さんのプライバシーには十分配慮している。</p>	<p>町内の行事の参加として、まずラジオ体操へ参加し徐々に参加を増やしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ケアカンファレンスにて外部評価を実施する意義を伝えている。又評価結果を伝え具体的な改善に取り組んでいる。	3ヶ月に1度、家族に近況報告を書面にして送付している。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族へは近況報告と一緒に会議の案内を送付したり、面会時参加依頼を行っている。運営推進会議にて自己評価の結果について説明し、外部評価の結果を公表し、改善策についても報告、意見交換を行っている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に自己評価や外部評価の結果を報告する場を設けていない。又会議以外にも入居者の利便性の向上等、生活の質を高めるための課題解決に向けて行政との連携も図られていない。	○ 市町村との連携のあり方を検討していきたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会が少なく、入居者や家族等に情報提供や事業利用につなげる支援ができていない。	○ 職員の外部研修参加必要。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の業務の中でもケアについて情報交換を行い、虐待防止についても話し合いを行い、注意を払っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者や家族に理念がケアの方針を説明し、疑問等管理者が随時受け付ける旨も説明している。変更事項、退居時も家族に十分に説明を行っている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当職員や管理者がティータイム等を利用し、意見、不満、苦情を傾聴し、運営推進会議にて伝える様になっている。又ケアカンファレンス時も検討している。	入居者の意見、不満、苦情を傾聴する機会をもつと多く持つ必要がある。(担当職員を中心に)
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	運営推進会議、近況報告、面会時に報告している。金銭管理についても預り金、収支一覧表に明記し、領収書を添付している。(毎日、月末)	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時苦情受付窓口(管理者)を伝えており、家族面会時もお茶を出し家庭的な雰囲気でお話出来る様配慮している。家族から出た意見等ケアカンファレンスにて検討している。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主にケアカンファレンスにて、職員の意見や提案を聞く機会を設け、皆で検討している。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者や家族の要望に柔軟に対応できる様、勤務の調整に努めており、夜間、必要時管理者が駆けつけ対応し、体制が整えられている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず、職員の交代があった場合は入居者への影響を最小限にする為、入居者には十分説明を行う様に配慮している。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講後、報告会や伝達研修を行なっているが、職員が個々の力量や経験に応じた研修が行われていない。	○	年間の研修計画の作成、研修の実施。
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は行われていないが、運営推進会議にて他事業者がどのような取り組みを行っているか聞き、良い事はとり入れ、サービスの向上に努めている。	○	地域の同業者と交流する機会を持ちネットワーク作りを行う。
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々の業務の中で変化がある場合、職員の悩みやストレスを聞いている。職員の意見をとり入れ良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる。		シフトの希望を調整し、ストレス軽減に努めている。
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回の健康診断の実施し職員の心身の健康を保つための体制を整えている。就業規則があり、守られている。(休憩室に掲示している)		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があった場合、本部の営業が対応し、施設見学入居の説明以外にも、広く相談を受けつけ家族の思いやニーズを把握し、信頼関係を築くことに心掛けている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本部の営業が何が必要か見極め必要に応じて、地域包括支援センター等の関係機関との連携を図っている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者家族と十分に話し合い、納得した上で入居となる様配慮している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ティータイム、食事、入浴、受診付き添い等日々の業務の中で入居者の喜怒哀楽を共感し、理解する様努めている。又その人に合った作業参加を促し、入居者と職員が共同しながら生活している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や近況報告での情報交換以外にも運営推進会議の場を利用して職員及び家族の思いや気づきを共有する等の取り組みにより入居者を共に支える関係を作る様務めている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者、家族間でもいろいろな事情がある為、出すぎた事のない様配慮し面会の依頼や電話にて近況を伝えている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	知人との連絡はほとんど電話にて行っており、入居者が交流を出来る様支援している。又入居者にとってなじみの場所に出掛けられる様、家族の協力を得て行っている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ケアカンファレンスにて入居者の情報交換を行い、個々のレベルに合った作業参加を促し、役割を持って生活し、その中で孤立しない様配慮し、人間関係作りにつなげる働きかけを行っている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も、変わらず管理者が相談に応じる旨を家族に伝え、これまで築いてきた関係を継続する様努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や知人の面会時入居者のプライバシーに配慮し、情報収集を行い、ケアカンファレンスにて職員に情報を伝え、日々の生活に反映出来る様に努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人の面会時入居者のプライバシーに配慮し、情報収集を行い、ケアカンファレンスにて職員と情報交換し、入居者1人1人のライフスタイル、個性、価値観の把握に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家族などから言えでの生活の様子を聞き、入居者、1人1人に合った生活のリズムで生活できる様配慮し、引きこもることのない様作業参加が行事への参加を促している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の意見を中心に家族、職員の意見、気づきを基に入居者本位の個別具体的なものになる様作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族や職員の意見が気づきを収集し、実施期間に関わらず入居者の身体状況の変化が、入居者、家族の希望の変化時には随時見直しを行う様にしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者1人1人の日々の暮らしの様子が身体状況等について会話等も含め具体的に記録し、家族とも情報交換し新たな計画を作成する様にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護師が週1回来設し、入居者の健康管理や健康相談を行っている。家族にも運営推進会議等にて実施状況を伝えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在、特に働きかけを行っていないが徐々に働きかけを行っていきたい。	○	地域、警察署や消防署等からの協力が得られる様、今後働きかけを行っていく。まずは運営推進会議にて地域への働きかけを行っていく。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今まで特に地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い等行なったことはないが、今後必要に応じて行っていく。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性に応じ地域包括支援センターと協力しながら関係機関や民生委員等との構築に努めていく。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを把握し、苦手なものは代替品を出している。又昼食は職員も一緒に摂り、摂取のサポートを行いながら、入居者との会話を楽しみながら食事時間を過ごしている。		
52 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙や飲酒の希望は聞かれていないが、入居者の嗜好品を把握し、誘導等による自立に向けた支援を行っている。		
53 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のケアの際、羞恥心やプライバシーに配慮し、1人1人の排泄パターンを記録把握し、誘導等により自立に向けた支援を行っている。		
54 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、時間帯を入居者と相談の上、入浴を実施している。入浴時はかならず見守りを行い、無理のない様支援している。		
55 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	職員が入居者間で会話を多く持ち、不安を解消できる様にし、できるだけ眠剤を服用せず寝付けない入居者には付き添い、安心して休息できる様支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者1人1人に合った作業参加や作品作りを促し、休息と作業のバランスをとり無理のない様支援している。(折り鶴作り、畑作業、裁縫等)		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者、家族と相談の上、お金を所持しており、支払いの際も自力で行える様支援している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日はホーム周辺を散歩したり、近くの店へ買い物に出掛けている。又、歩行困難な入居者は中庭に出て日光浴を行っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の希望としては、一番自宅に帰りたいという方が、ほとんどであるが、家族と相談し可能なかぎり実現できる様支援している。(いろいろな事情により問題が多い)		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に電話したり、手紙を出すことができる様、訴えがあった場合速やかに支援している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者には笑顔で挨拶し、お茶を出すなどし、ゆっくり過ごしてもらえる様工夫している。宿泊に関しても寝具や食事の提供を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという姿勢で、日々のケアを提供し、常時見守りが必要な場合は、目の届く所に移動してもらい対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の方針で常時玄関は施錠している。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールには常に職員が居り、安全に配慮し、居室で休んでいる入居者さんの様子を見る際もドアをノックし、プライバシーに配慮している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や消毒液は入居者の手の届かない所に置き、カーテン等により目にふれない様、危険を防ぐ取り組みをしている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の業務の中で、危ないと思った事があつたらその都度、気づきシートに記入し、事故防止に努めている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていない。	○	応急手当や初期対応の訓練の実施。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難誘導策が作成されておらず、地域の人々への協力を得られる様働きかけを行っていない。	○	夜間想定での避難訓練の実施。 地域の人々への協力の働きかけ。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の状態の把握に努め、少しでも変わった事があった場合は家族に連絡し、その都度対応策を話し合う様にしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化や異変があった場合、記録に残し家族に連等するとともに必要的受診を行っている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は申し送りを行い、状態観察し、変化があった場合、医師に報告し必要時受診している。飲み忘れ等無い様かならず職員2名で確認している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	バランスのとれた食事摂取や運動を訪問看護師の方から説明してもらい、どうしても自然排便みられない場合下剤服用している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、晩のケアはかならず促し、介助が必要な入居者は洗面所まで誘導し清潔保持に努めている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、毎食記録に残している。水分補給はinとoutの量を観察し行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、感染症に関する情報を運営推進会議等にて家族に伝えている。	○	定期的な学習の機会を設ける。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	次亜塩素酸ナトリウム液に食器やフキンをつけ置きし、消毒してから決っている。冷蔵庫も毎週日曜日、庫内掃除と整理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に花のプランターを置き、明るい雰囲気作りに努めている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールテーブルにテーブルクロスを使用し家庭的な雰囲気作りに心掛けたり季節感のある飾りつけや、コタツを置くなど、ほっとする様な空間作りに配慮している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブルは少人数で座る様にしたり、和室にソファを置き膝が悪い人でも気軽に利用してもらえる様居場所の工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していた家具や使い慣れた小物、テレビを持ってきてもらい居心地よく過ごせる様工夫したり、家具を買い足す時も好みのものを購入してもらう様配慮している。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、ホール共に定期的に換気し空気のだよみがない様にし、室温も入居者に合わせた温度設定にしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は要所に手すりがついており、必要であればベットにも手すりを設置している。洗面所や物干しも入居者が使用しやすくなっている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の混乱や失敗のない様、トイレや浴室は分りやすい様表示している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭に畑を作り、野菜が果物を植え収穫を楽しんだり、日光浴したり、交流の場となっており、ガーデンチェアやテーブルを設置している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者が集うホールを飾り付けやテーブルクロスを使い、家庭的な雰囲気作りに心掛け、ティータイムや食事をゆったりとした気持ちで摂取できる様にしたり、ソファやコタツを設置し、居室以外でも1人になれる空間作りをしている。

入居者1人1人が趣味の時間やプライベートな時間をもてる様、作品作りやビデオ視聴、音楽鑑賞等少人数での対応に心掛け、日々の生活を送れる様支援している。